

新技術の労働に及ぼす影響

中村章氏

中村章会員の2年にわたる調査研究の結果である。膨大な文献調査があり、まず、ドイツがインダストリー4.0を国を挙げて取り組んでいる状況と、最先端は米国がリードしている現状がある。近年、世界中で急速に技術革新が行われている状況が報告された。

テクノロジーが雇用に及ぼす影響については、野村総研等の予測によれば、わが国では49%の労働人口がロボットや、人工知能による代替が可能とみている。



中村氏は、ロボット技術が自動車産業とともに歩んできた実情を説明し、その他の介護分野等では、まだ開発途上であることをレポートされた。介護ロボットの現状は発展途上で、ロボットはドアノブを回すことができない段階であるが、慶応大学の西大公平教授が発明した「リアルをつかむ、力触覚技術」が今後の進歩の可能性を持っていると述べる。

中村氏の結論は、AI、IoTを研究すると、人間の未来が怖いものに見えてくること、技術開発を最初に達成したものが、常に第1位の立場を維持し続けるという予測に、暗い気持ちになると述べていた。

テクノロジーの将来は人間にとって真の幸せをもたらすのか、電源を切ってもコンピューターが勝手に動くことが起こるといふ、先が見えない将来を考えさせられたセミナーであった。7月13日実施。
(森下一乗)